

英語教育の戦略

－ Extensive Reading (多読) 法の英語教育の先にあるものは何か－

城 千景

研究目的

「読む」「書く」「話す」「聴く」の4技能を総合的にトレーニングする指導方法として注目されている多読に着目し、指導方法の特徴と実践での有効性について理解を深める。さらに、多読を教育戦略の一環として採用した名城大学の事例を取り上げ、実践の現状について分析を行い、多読による教育戦略が他大学のモデルになり得るかについての可能性を考察し、今後の課題を明らかにする。

第1章 日本における英語教育の現状と課題

英語教育の全体像を把握するため、英語教育に関する国の調査結果を利用した。その結果、中学校と高等学校では国の定める目標に沿って、少人数指導、習熟度別指導の導入が進められているものの、授業の大半を英語で行うことはまだできていない。大学では、多くの大学が英語教育の改革を行っているものの、具体的な達成目標を設定する大学は少なく、対応にばらつきがあることが明らかとなった。

第2章 多読指導と実践事例

多読の目的と成功した多読のプログラムの10個の特徴を紹介し、多読の理解を深めた。そして、SSSによる多読の原則を基に多読指導を行っている高校と大学で多読が英語の「読む」「書く」の英語力育成に適していることを明らかにし、認知心理学的観点からも多読が「読む」「書く」英語力の向上に適していることを明らかとした。そして、今後の課題として多聴への取組とコミュニ

ティの確立が課題であることを示唆した。

第3章 名城大学での「多読」実践と「多読プロジェクト」戦略

英語教育の戦略として多読を取り入れ「多読プロジェクト」を立ち上げた名城大学の実践の紹介と現状分析を行った。また、多読プロジェクトの中で授業外多読の有効性の検証と多読コミュニティの擁立に関わる「楽読クラブ」の活動を紹介した。結果、多読を行った多くの学生がフィクション、ノンフィクションに囚われることなく様々な分野の本を読んでいること、楽読クラブを設立したことでコミュニティが確立しつつあることを明らかにした。現在の問題点として学部間の取組の差を指摘した。今後の課題として、学生に対するアンケート調査の必要性、コミュニティの拡大を示唆した。

第4章 「多読プロジェクト」戦略の今後の可能性

多読プロジェクト戦略の今後の可能性を①名城大学の英語教育の可能性と②日本の英語教育の改革に対する可能性の2つの側面から捉え、その可能性を考察した。①に対しては、継続学習を促し、多読が専門性の高い英語力を育成することでより高度な英語力が育成できる可能性を示唆し、②に対しては、多読コミュニティの確立によって、多読に取り組む中学生や高校生を大学に呼び込むなど、入学者となり得る生徒に対する広報としての役割を担えること、地域への開放によって新しい地域貢献の形になり得る可能性があることを示

唆した。これらの可能性が確実なものになれば、十分に他大学のモデルになり得るだろう。

目次

内容概要

はじめに

第1章 日本における英語教育の現状と課題

第1-1節 中学校と高等学校の英語教育の状況

第1-2節 大学英語教育の改革状況

第1-3節 まとめ—英語教育の現状と課題

第2章 多読指導と実践例

第2-1節 多読とは

第2-2節 多読の目的と特徴

第2-3節 日本における多読の実践例

第2-4節 まとめ—多読の日本の現状と課題

第3章 名城大学の「多読」実践と「多読プロジェクト」戦略

第3-1節 名城大学での「多読」の実践

第3-2節 「多読プロジェクト」の誕生

第3-3節 「多読プロジェクト」の実行

第4章 「多読プロジェクト」戦略の今後の可能性

第4-1節 名城大学の英語教育に対する可能性

第4-2節 日本の英語養育の改革に対する可能性